

5歳児発達相談研修会（平成26年10月14日）でのQ&A

山口県小児科医会 5歳児発達相談推進委員会

Q1. 突然何もしていない子に暴力行為をする子に対しての対応の方法についてご指導ください。

A1. 相手は特定の子ですか？ 不特定の子ですか？ 特定の子であれば、その子（おそらく仲間です）との接触を回避します。不特定であれば、その子がとても困っているということです。（林 隆）

Q2. 気持ちの切り替えができない子への適切な対応とは？ 「静から動」など活動の変わり目など気持ちの切り替え時における対応について教えてください。

A2. 見通しをつけるのが苦手な子でしょう。言語指示だけで、次にすべき行動がイメージ出来ないのでしょうか。集団の中ではお手本を見せる、他の子からワントーン遅れて手本を示すことが大切です。（林 隆）

Q3. 集団に入る中で個別に対応できない時の活動の参加のさせ方を教えてください。

A3. 個別の指導は必要です。全体指導をしている間（ま）を持たせることを考えてください。ただ待つことはできません。何かをしてその間（ま）を持たせてください（3DS, iPadとか）。（林 隆）

Q4. なかなかルールを守れない子、話を聞かない子への援助の仕方を教えてください（事前にルールを伝える、できている時にしっかり褒める事以外で）。

A4. つまづいた時にその場その場でどうすればよいかを具体的に示してください。手をかけるということです。（林 隆）

Q5. 昼夜が逆転して登園できない子どもがいます。どのような手立てをしたらよいのでしょうか？

A5. お父さんやお母さんのお仕事やご両親の考え方等家族の生活習慣に影響を受けている可能性が高いです。さまざまな事情を念頭におきながらも、小学生になる1年半くらい前から、生活習慣を見直して入学に備えることの大切さをご家族と相談なさってください。（金原洋治）

Q6. 自分の方に向けてほしくて突然スイッチがはいったようにマイナスな行動（室内をはしる、物をひっくり返す）をする子（行為のコントロールが効かなくなる子）と、どのような関わりを大切にしていくとよいでしょうか？

A6. まずは言い分をきいてあげて、信頼関係を作ってください。指導者の言い分をきいてもらうのはその後です。（林 隆）

Q7. 友だちとのコミュニケーションがうまく取れずたいたり嫌がることをしつこくする子と、どのような関わりを大切にしていくとよいでしょうか？

A7. 言葉による表現のできない子だと思います。何をしたいかを指導者が想像して言い分をきいてあげてください。その後に気持ちの切り替えを試みてください。（林 隆）

Q8. 身のまわりのことは自分でできますが、何をするにもゆっくりペースで急ぐことができずクラスの流れにのれません。メリハリをつけて生活していくようにしたいが、なかなかできずに困っています。

A8. 「ゆっくり」を子どもの特性と考えて「ゆっくり」を認めてあげてください。「ゆっくり」を尊重できる環境設定をしてください。（林 隆）

Q9. 体力がなくてすぐ疲れて座ろうとします。まっすぐ立つだけでも疲れてふらふらしたりします。メリハリをつけて生活していくようにしたいのですが、なかなかできずに困っています。

A9. 筋緊張の低い子が発達障害のなかに多いです。わざとだらしない格好をしているのではありません。30kg近い鎧をきて日常生活を送っていることを想像してください。（林 隆）

Q10. 言葉の遅い子どもと発達障害のとらえ方は？

A10. 言葉が遅いというご相談では、話し言葉が遅い、理解が遅い、会話になりにくい、会話がはずまないなどがあります。原因としては、個人差、知的障害、発達障害（自閉症、LDリスクのある子ども）が考えられます。通級指導教室（ことばの教室）の幼児部に相談することをお勧めします（金原洋治）

Q11. 言葉の発音の遅れが気にかかる子について教えてください。

A11. 5歳で気になる発音は、カ行、サ行がタ行になる場合が多いです。その他、鼻に抜けたような発音など発音の遅れは年中児が相談の時期です。程度がひどい場合は通級指導教室や病院や発達センターの言語聴覚士に相談してみてください。（金原洋治）

Q12. 言葉の遅れのある子どもに対してまわりの子どもがそのことを指摘した時、どのように対応したらよいのでしょうか？

A12. 「先生にも苦手なことがあるし、みんなにもあるよ。苦手なことは特別なことではない、大きくなったら上手になるよ」とお話ししてあげてください。（金原洋治）

Q13. 場面かんもくの子どもがいます。どのように関わっていけばいいのでしょうか？

A13. 場面かんもくにも重症度に差がありますし、話せるようになる時期にも差があり、なかには、幼児期から症状が続いているのに高校生や大学生になって受診される場合もあります。幼児期からの周囲の大人の関わり方が一番大切です。「かんもくネット」の資料や出版した本に適切な関わり方を書いていますので、参考にして下さい。通級指導教室（ことばの教室）での相談をお勧めします。（金原洋治）

Q14. 園は気になっているけれども、保護者が相談を希望されないケースの場合のその後のフォローについてどのようにしていけばよいのでしょうか？

A14. 相談の窓口とアクセス方法を示して、悩みや困り事がおきたら相談にきてもらうパイプを示します。園で出来る支援方法についての情報を提供します。（林隆）

Q15. クラスに多動の子がいます。家庭ではそれほど困り感がないと言われますが、園では補助教諭をつけています。医師による診断はまだです。家庭と園との子どもとのとらえ方が違うためになかなか専門機関につなげるには至りません。園でできることはしているつもりですが、このまま成長を見守り様子を見るべきか、積極的に保護者にアプローチするべきか、子どもにとって一番良いのは・・・？と考えています。

A15. 補助教諭をつける時に承諾をとられましたか？ 家で困り感がなければ、園の先生方と共通認識を持つことは容易ではありません。園で出来ることをされていれば十分です。強いて言えば、子どもの捉え方とその捉え方をもとに実践して旨くいくやり方があれば、情報としてそのことを家族に伝えるのは良いと思います。

(林 隆)

Q16. 支援の必要な子どもに対して保護者の認識とズレがあり、なかなかこちらの思いがうまく伝わらない時、どのように伝えたらよいでしょうか？

A16. 「どのように伝えたらよいか」の前に、先生が何を伝えたいかももう一度振り返ってみてください。先生の困り感（つらさやしんどさ）を伝えようと思ってもそれは絶対に伝わりません。（林 隆）

Q17. 「家ではできる」と言われる保護者に対して、幼稚園では他の子どもと比べると「できない」ことを知らせるためには、どのような方法があるかを知りたいです！！

A17. かなりヒートアップしてそうな事例ですね。どうして保護者に、幼稚園では他の子どもと比べると「できない」ことを知らせたいのでしょうか？ 保護者は「家ではできる」といってるだけで、「園でもできる」と主張されているわけではないと思います。冷静に冷静に。（林 隆）

Q18. 5歳児発達相談を1歳半・3歳半と同じように全児が受けられるようになることを切に希望します（本当に相談を必要とする児の親がそれを拒否するケースが多くて困っています）。

A18. 1歳半や3歳半健診は法律で実施が義務づけられている健診ですが、5歳児発達相談はそうではありません。保護者の方が希望された場合が相談対象となります。保護者が拒否される場合で、園での対応に困る場合は巡回相談やコーディネーターの要請訪問など園に訪問して相談できる制度の利用をお勧めします。（金原洋治）

Q19. 個別の配慮や支援が必要であるお子さんの就学について保護者の方へのアドバイスをするとき大切なことを教えて頂きたいです（通常の学級、特別支援学級、支援学校等、本人の実態に合った在籍を考えながらも、保護者の気持ちにも寄り添えるように）。

A19. 3点セット（WISCなど標準的なIQテスト、幼稚園や保育所での日常生活の支援量、親の思い）を用意してもらうこと。また通常学級、特別支援学級、通級指導教室、特別支援学校で受けられる教育的サービス、受けられない教育的サービスを明確に示すことです。（林 隆）

Q20. 保護者が気になって病院へ行ったが特に診断名もなく「とりあえず様子を見ましょう」と言われた時、逆に不安になられる保護者がおられます。そのような場合、園として相談にのっているだけでいいものなのでしょうか？何か手立てはありませんか？

A20. 保護者の不安をきいてあげてください。それが妥当なものであれば、園として様子を見ることにつきあってあげてください。園で様子を見た記録を添えて、6ヶ月後に再受診してもらってください。それでも様子を見ましょうであれば、5歳児発達相談までまってみましょう。（林 隆）

Q21. 気になる子どもが何人かいますが、私達保育士と保護者の連携をどうもったらよいか、ひとりひとりが楽しく過ごすにはどのようにかかわったらよいかなど、具体的に教えて頂ければうれしいです。

A21. 連携は情報の共有とそれぞれの役割分担を明確にすることです。情報共有は一方的では旨いきません。園での子どもの様子を保護者に提供するの大切です。しかし、その延長で保護者に園での実践を要求してはいけません。家の情報（生活、家族のこと、仕事のこと等）をしっかりときいてあげてください。（林 隆）

Q22. 発達障害と診断されたお子さんの就学について、通常学級か支援学級か判断する際のポイントについて教えて頂ければと思います。

A22-1. 通常学級は集団指導が原則です。個に対する配慮は無いのが前提です。支援学級は個に対し配慮できる環境です。通級指導が親を悩ませていますね。（林 隆）

A22-2. 林 隆先生の回答への追加です。今年の春から文部科学省や山口県教育委員会では就学指導委員会を就学支援委員会に名称を変更しました。従来の就学指導委員会では、特別支援学校が適切と判定された場合でも、保護者が特別支援学級や通常学級を希望した場合は認定就学者として市町村が教育環境を整備しなければならないことになっていました。今後は、逆で、障害が重くても校区の小中学校の在籍が原則となります。しかし、実際は、その子どもの障害の程度や種類だけでなく、保護者の思い、子どもの思いなどを汲み取りながら、適切な就学先を決めていくことに変わりはありません。（金原洋治）

Q23. 保護者に「自分の小さい時も同じだった（だから今のままで支援は必要ない）」と言われた場合は、どのように対応すればいいのでしょうか？

A23. 基本は保護者の主張を否定せずに肯定的に受け止めることが大切です。

「身近なところに一番の理解者がいるのでお子さんは安心ですね」「親御さんが困ったことは手をかしてあげるのが一番です」と親の思いを受け止めて、今できることのいくつかを具体的に提案します。（林 隆）